

ベトナム技術者活躍

鹿屋・森建設が2人を正社員雇用

建設業界が慢性的な人手不足にある中、鹿屋市の森建設（森義大社長）はベトナムから技術者2人を正社員として採用し、現場の工程管理などを任せている。関係者によると、県内で外国人技能実習制度を使った業界での雇用例は少なくないが、正社員雇用のケースは珍しいという。

現場配属 人材確保へ独自策

ズオン・ティエン・ズンさん（26）、グエン・ヴァン・ドンさん（27）。いずれもハノイ工科大学で建築を学び、現地のビル建設などに携わってきた。

経済成長が見込め、日本人と気質も似ているベトナムに注目し、建設業界に多くの卒業生を送り込んでいるハノイ工科大学と直接やり取りした。昨年の募集には20人近い応募があり、うち10人を社長自ら現地で面接し、一定の経験と日本語の習熟度を基準に決めた。

森社長によると、取引先の農業関係の会社で外国人技能実習生が活躍しているのを見て刺激を受けた。ただ数年で帰国する実習生ではその場しのぎになりかねない。それなら日本で働く意思のある若い技術者を独自に採用し、戦力にと考えた。

地方の建設会社が海外から技術者を迎える例は珍しいためか、入国手続きに時間を要し、来日は当初の昨年4月が7月にずれ込んだ。

だ。鹿児島労働局の昨秋時点の調査では、県内の建設業界で働く外国人（永住者などは除く）は83人、うち80人は技能実習生とされる。2人は本社のある鹿屋市で日本の生活や仕事の雰囲気に慣れた後、年明けから伊佐市の建築現場に配属されている。コンピュータ利用設計システム（CAD）での製図はもちろん、工程計画の作成や朝礼時の連絡調整もこなす。

積み、現場監督になれるように頑張る」、ドンさんは「建築施工管理技士2級の資格を取りたい」と意欲を見せる。森社長は「2人は人材確保の試金石。うまく軌道に乗るようバックアップしたい」と期待する。

（編集委員・野添聡子）



伊佐市の大型畜舎の建築現場で働くズンさん（右）とドンさん

ズンさん